

須磨小わくわくプロジェクト

周南市立須磨小学校

1. はじめに

本校は、周南市の山間にある児童数8名の極小規模の学校である。学校のそばを清流錦川が流れ、校庭には5本の銀杏の大木が立ち並び、子どもたちは日々その美しい自然の中、生き生きと活発に活動している。また、保護者・地域の方々は「地域みんなが応援団！」を合い言葉に子どもたちを地域の宝として、地域みんなで育てようと積極的に学校運営に参画・協力してくださっている。須磨小学校は自然と地域とともにある学校である。

今年度は待望の1年生が入学し、学校に、地域に新しい風を吹き込んだ。その1年生をはじめ、児童8人全員がこの学校に通うことができよかったですと感ずることができるよう、8人を1クラスとして、できる限り全員で活動し、一人一人が輝く「わくわくする学校」を目指して、様々なプロジェクトに取り組んできた。

2. 活動の実際

(1) 須磨小わくわくプロジェクト～その1～ 農園体験（4月～9月）



須金地区には地域の基幹産業としてなし・ぶどうの生産があり、保護者の中にも、農家の方が多くいらっしゃいます。これまでも毎年なし・ぶどうの生産作業体験を行っている須磨小の子どもたちにとっては、なし・ぶどう生産はとても身近なものであると同時に、そこで一生懸命働いておられる方々の姿は、あこがれを抱く存在でもある。今年度は、さらにそこに働く人の思いや願い、苦労や喜びを身近に感じ、生



きがいをもち働く姿に迫るため、また、須金を支える産業が多くの知恵と努力で成り立っていることを実感できるよう、春から秋にかけて、なしづくりの1年を全て体験させていただくプロジェクトを行った。子どもたちは受粉作業から収穫までを体験することで、四季の変化とともに作業が移り変わり、農家の方の自然とともに生きる姿に気付くことができました。また、長時間の作業が決して楽なものではないことも実感として触れることができました。活動後の児童の発表では、本物を体験したからこそ生まれる実感のこもった気付きや感想を聞くことができました。このような実感が、子どもたちの郷土に誇りを感じ、大切にしようとする態度につながっている。

きがいをもち働く姿に迫るため、また、須金を支える産業が多くの知恵と努力で成り立っていることを実感できるよう、春から秋にかけて、なしづくりの1年を全て体験させていただくプロジェクトを行った。子どもたちは受粉作業から収穫までを体験することで、四季の変化とともに作業が移り変わり、農家の方の自然とともに生きる姿に気付くことができました。また、長時間の作業が決して楽なものではないことも実感として触れることができました。活動後の児童の発表では、本物を体験したからこそ生まれる実感のこもった気付きや感想を聞くことができました。このような実感が、子どもたちの郷土に誇りを感じ、大切にしようとする態度につながっている。

(2) 須磨小わくわくプロジェクト～その2～ 浮島小との交流学习（7月・12月）

今年度は、規模の大きい近隣小学校との交流に加え、海と山の環境は違えど、全校児童8名と同じ規模である周防大島町立浮島小学校との交流を夏と冬に行った。

夏の浮島小学校での交流は、魚釣り体験や大人数での運動・遊びなど、日頃できない貴重な体験をすることができた。初めこそ少し緊張も見られたが、同規模ということもあり、すぐに打ち解け、初めから同じ学校の仲間という雰囲気すら感じられた。互いの学校・地域の紹介など表現する場の仕掛けも設定し、コミュニケーション力や表現力を高める絶好の機会となった。



冬の須磨小学校での交流では、今度は自分たちが浮島小の子たちを楽しませようと、自分たちで交流計画・準備を行う場面も設定した。交流集会・学習の後は、楽しみにしていたツリークライミング体験を行った。須磨小の校庭の銀杏に両校の児童が登り、運動場に子どもたちの笑い声が響いた。活動中、子どもたちが自然に声を掛け合い、手を取り、助け合い、過ごしている姿が大変印象的であった。

大きな学校との交流も様々な意義があるが、このような同規模の学校の交流でしかできない「心の交流」が大きな成果となった。

(3) 須磨小わくわくプロジェクト～その3～ トウガラシプロジェクト

日頃からお世話になっている地域の方々の役に立ちたい、ふるさと須金を元気にしたいという5・6年生の思いからスタートした「トウガラシプロジェクト」。新しい須金の特産物になり、鳥獣被害が少なく、だれでも食べられるものとして「辛いトウガラシをつかったカレーペースト」を作ることにした。5月からトウガラシ農家で保護者でもある方のご指導で、校庭に辛いトウガラシを栽培し、9月にトウガラシペーストが完成した。その名も「グルグルグリーンカレー（辛い）～須磨小スペシャル～」。その間、保護者・地域の方を招き、児童・教職員の4者で販売やアピールの方法を熟議し、みんなで須金の未来について考えた。活動の中には、自分たちの思いをどう伝えるか考え、自分なりの方法で伝える場面が多くあり、企画力・実行力・表現力・自主性を向上するよい機会となった。また、周囲の反響も大きく、自分たちで進めてきたことが周りに影響を与え、結果、高い評価を得ることになったことで、自己肯定感を高めることにつながった。



その他にも、「わくわくプロジェクト」して、運動場の芝生化、プールサイドの耐熱処理化・遊具や地域の生活道路側溝のペンキ塗りなど、学校・地域がわくわくする場所となるよう取り組んだ。遊具等のペンキ代、芝生管理・環境整備のための芝刈り機購入に本事業助成を活用した。